



白山市立美川小学校

# 校長室だより

2025

一人一人が輝く  
★チーム美川

令和8年2月26日  
白山市立美川小学校



白山市美川和波町ワ229  
TEL 278-2063

## 「ミラノ・コルチナ冬季五輪から感じた大切なこと」

校長 中野 和人

保護者・地域の皆様には、日頃より本校の教育活動に温かいご理解とご支援を賜り、心より感謝申し上げます。

先日閉幕したミラノ・コルチナ冬季オリンピックでは、さまざまな競技で日本選手が活躍しました。中でも、日本代表の10代を中心とした若い選手たちの姿に、私は大きな学びと感動を覚えました。それは、単に「勝った・負けた」という結果以上に、彼らの生き方や競技に向き合う姿勢が、私たち教育に携わる者への示唆に満ちていたからです。

### ◆自分の課題に向き合う力

フィギュアスケート、スノーボード（ハーフパイプ・ビッグエア・スロープスタイル）競技は、相手と直接ぶつかるわけではなく、採点競技で「自分の技をどこまで高められるか」という戦いです。選手たちの姿からは、他者との比較ではなく、自分自身と向き合い、課題に挑み続ける力の大切さを感じました。これは、子どもたちの学びと重なります。

他の誰かと比べるのではなく、「昨日の自分より、一歩前へ」という学びの在り方を、学校として大切にしていきたいと改めて思いました。

### ◆勝敗を越え、仲間をたたえ合う態度

表彰台に届かなかった選手が、ライバルの成功をたたえ、笑顔でハグする――。

今回の大会では、そんな場面が何度も見られました。勝ち負けにこだわることも大切ですが、仲間の努力や挑戦を心から素直に認めて祝福する。この姿勢は、子どもたちが学校生活や日々の学びを通して育んでほしい、思いやりの心や、健全な自己肯定感そのものだと感じます。

### ◆支えてくれた人への感謝

多くの選手が「国を背負う」というよりも、自分を支えてくれた家族や指導者、仲間、関係者への感謝を何度も口にしています。

華やかな舞台に立つまでの時間を支えてくれた人々への思いを忘れず、その気持ちを素直に言葉にできる姿は、スポーツマンとしてだけでなく、一人の人間としての成熟さを物語っています。子どもたちにも、日々の中で支えてくれている家族、友だち、地域の方々へ「ありがとう」と表現できる温かい心を育てていきたいと強く感じました。

### ◆悲壮感にとらわれず、自然体で挑む姿

インタビューで見せる、肩の力が抜けた自然体の受け答え。それは、自分を過度に追い詰めるのではなく、挑戦を“楽しむ”心の余裕を持っているからこそ生まれるものなのでしょう。

学校の学びにおいても、「やらされる」ではなく、「やってみたい」「挑戦したい」という気持ちを大切にしたいと、選手の姿から改めて学びました。

子どもたちが、自分の課題に向き合い、仲間を認め合い、感謝を忘れず、そして挑戦を楽しむ。そんな学びの場を、これからも学校と地域で一緒につくっていききたいと思えます。

今年度も残りわずかとなりましたが、ご支援のほど、よろしくお願い申し上げます。